

11月 24-30 日

## [イザヤ 1-2 章](#)

44 番の歌と祈り | 開会の言葉 (1 分) 有田悟 | 阿部直生

### 神の言葉の宝

1. 「重い過ちを負っている」人たちのための希望 (10 分) 梅原直行

[「イザヤの紹介」の[動画を再生する](#)。]

神の民は「**重い過ちを負って**」いた。(イザ 1:4-6。イ-1 14 ページ 8 節)

エホバは、**民が悔い改めるなら、完全に許したい**と心から思っていた。(イザ 1:18。イ-1 28-29 ページ 15-17 節)



じっくり考えてみよう **エホバがイスラエル国民に掛けた言葉は、許されない罪を犯したと思って苦しんでいる人にとってどのように慰めとなるか。**

2. 宝石を探し出す (10 分) 長谷川瑛一

[イザ 2:2](#) 最後の日々(\*終わりの時代)に、エホバの家の山は、山々の頂より高くしっかりと据えられ、どの丘よりも高くそびえる(\*上に高められる)。全ての国の人々が流れのようにそこに向かう。

**「エホバの家の山」は何を表しているか。**

(イ-1 39 ページ 9 節) 言うまでもなく、今日、神の民は石造りの神殿のある文字どおりの山に集まるわけではありません。**エルサレムのエホバの神殿**は西暦 70 年にローマ軍によって滅ぼされました。さらに、使徒パウロは、エルサレムの神殿とそれ以前に存在した幕屋は描画的なものであったことを明らかにしました。それらは、**より偉大な霊的実体**、つまり「**人間ではなくエホバの立てた真の天幕**」を表わしていたのです。(ヘブライ 8:2) その**霊的な天幕とは、イエス・キリストの贖いの犠牲に基づき崇拝においてエホバに近づくための取り決め**のことです。(ヘブライ 9:2-10, 23) その点と調和して、[イザヤ 2 章 2 節](#)の「**エホバの家の山**」は、**わたしたちの時代**における、**高められた、エホバの清い崇拝**を表わしています。**清い崇拝を奉じる人たちは地理上の特定の場所**に集まるわけ**ではありません。崇拝において一致して集まる**のです。

**今週の範囲からどんな宝石を見つけたか。**

(2:7-8) エホバが**古代イスラエルの悪い世の中を滅ぼされる**のは、**物質的な繁栄や軍事的な安全の追及**だけでなく、**偶像崇拝を止めなかった理由も挙げて** (2:9) で、**その邪悪な人々を許すことはあり得ない**と**明言**されていた。**今の世と邪悪な人々の裁きも近づいている****厳しい現実を良く認識し、引き続き愛を込めて、宣教で自分のできることを行っていきたい。**

3. 聖書朗読（4分）イザ 2:1-11（教励 第11課） 田中克彦

## 野外奉仕に励む

4. 会話を始める 安齋恵里 愛込 3-3 枝並真菜

（3分）家から家で。「愛を込めて」の冊子の[付録A](#)から1つの点を伝える。

5. 再び話し合う 田中麻美子 愛込 7-4 福永悦子

（4分）家から家で。話そうとしていた話題とは違うことに、家の人に関心を示す。

6. 話（5分）[イ聖 記事 96](#) 主題: 罪とは何ですか。（[教励 第20課](#)） 有川聖七

## クリスチャンとして生活する

### [38 番の歌](#)

7. 「エホバの友になろう エホバはゆるしてくれる」（15分）討議。 大谷正

[動画を再生する](#)。もしあれば、前もって選んでおいた子供たちをステージに招き、動画を見て感じたことや学んだことについて尋ねる。

8. 会衆の聖書研究 星延宏 | 長谷川貴史

（30分）[大 レッスン 38](#), [セクション7の紹介](#), [レッスン 39](#)

---

閉会の言葉（3分）| [89 番の歌](#)と祈り 浮田蒼

^ ([イザ 1:1-2:22](#)) ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、アモツの子イザヤ\*がユダとエルサレムに関して見た幻。2 天よ、聞け。地よ、注意を払え。エホバが話した。「私は子供たちを養い、育てた。しかし彼らは私に反抗した。3 牛は飼い主を、ロバは持ち主の飼い葉おけをよく知っている。しかしイスラエルは私\*を知らず、私の民は理解が欠けている」。4 罪深い国民、重い過ちを負っている民、悪を行う子孫、墮落した子たちには災いがある！彼らはエホバを捨て、イスラエルの聖なる方を侮り、その方に背を向けた。5 あなたたちはもう全身を打たれているのに、なおも反逆するのか。頭はすっかり病んでおり、心臓もすっかり弱っている。6 頭から足の裏まで、健全な所はない。傷やあざやただれがあり、それらは手当てされておらず、包帯も巻かれておらず、油を塗られ\*てもいない。7 あなたたちの土地は荒廃し、町々は火で焼かれた。あなたたちの目の前で土地が外国人に食い荒らされ、外国人に滅ぼされた荒れ地のようになった。8 シオン\*は取り残された。ブドウ園の仮小屋のように、キュウリ畑の掘っ立て小屋のように、包囲された町のように。9 大軍を率いるエホバが少しの生存者を残してくださらなかったなら、私たちはまさにソドムのようになり、ゴモラと同じようになっていただろう。10 ソドムの支配者たちよ、エホバの言葉を聞け。ゴモラの民よ、私たちの神の律法\*に注意を払え。11 エホバはこう言う。「あなたたちが多くの犠牲を捧げても、私にとって何の価値があるだろう。雄羊の全焼の捧げ物や、肥えた動物の脂肪はもうたくさんだ。私は若い雄牛や子羊やヤギの血を喜ばない。12 あなたたちは来て私の前に出るが、誰がこのことを求めたのか。私の庭を踏み荒らすことを。13 無価値な穀物の捧げ物をこれ以上持ってきてはならない。あなたたちの香は忌まわしい。あなたたちは新月や安息日を祝い、大会を開くが、特別な集まりで魔力が使われることに私は耐えられない。14 私はあなたたちの新月の祝いや祭りを憎んだ。それらは私にとって重荷となり、私は負うのに疲れた。15 あなたたちが両手を広げて祈る時、私は目を覆う。あ